

## 4-9 カムイユカラ「ハンチキキ ソクソキヤ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：これも **kamuyyukar** [神謡] で

貝澤：そうだ。

萱野：お婆さんたちがよく孫を寝せる時などやっておったの聞いたことあるんです。この場合のあれはちょっとその、最初の出だし **hancikiki sine amam pus hancikiki ci=puikare** [ハンチキキ 一つの穀物の穂を ハンチキキ 倉から出して] と、これは **amamecikappo** [スズメ] ？

貝澤：**amamecikappo** [スズメ]、酒こしらえたので、こんと [今度]

萱野：スズメの……**amamecikappo** ちゅうのは普通のこの村スズメというと、この家の前で見えるスズメの……、が自分で自分のことを語っている。

わたくしはスズメです。1つのヒエの穂を、ぜんぶ白 [精米] にして、それで酒を造った。6つの **sintoko** [シントコ] に満々と酒を造って、わたくしは何日かして大勢の神々を招待した。たくさんのお酒を飲んで上機嫌になった。

カケスの男が **tapkar** [踏舞] しながら **tapkar** というのは、お酒を飲んだ時にこう楽しくなって踊る踊りですが、その **tapkar** をしながら外へ出て、1つの **sine nisew num** [一つのドングリ] という言葉で、1つのドングリをくわえて入って来て酒樽に入れた。神様はみんな手をたたいて笑って喜んだ。

次にカラスの男が立ち上がって **tapkar** しながら外へ出た。大きなウンコの塊を1つくわえて入って来て酒樽に入れた。それで神様は大いに怒って、そのカラスの男を皆で叩いていじめて殺してしまった。そこで **sakehe** [折り返し] が **hancikiki** から **soosokiyak soosokiyak** っところ変わっていくんですが、今度はその

貝澤：あのキチチキ [キツツキ] **asurani hawehe** [キツツキが知らせる声]

萱野：あー今度はその喧嘩が始まったから、よそへ神様を迎えに行って連れて来て、仲裁するという筋書きの **kamuyyukar** [神謡] ですね。この場合は **kamuyyukar**。 **sakehe** [折り返し] は **hancikiki** とそれから **sossokiyak sosskiyak**。

貝澤：**asurani p** [危急を知らせるもの] は **soksokiyak sakayo an na** [ソクソキヤク 喧嘩だよ] って言うんだ。

萱野：あーなるほどね。 **a... sossokiya sakayo an na** [ソクソキヤ 喧嘩だよ] が

貝澤：**sa... sakayo an na soksokiyak kamuy opitta soksokiyak ikaopas yan** [喧嘩だよ ソクソキヤク 神様みんな ソクソキヤク 助けに入ってください] って言うのよ。

萱野：あーなるほどな。そういうふうにしていくと。今のは **kamuyyukar** [神謡] でしたね。